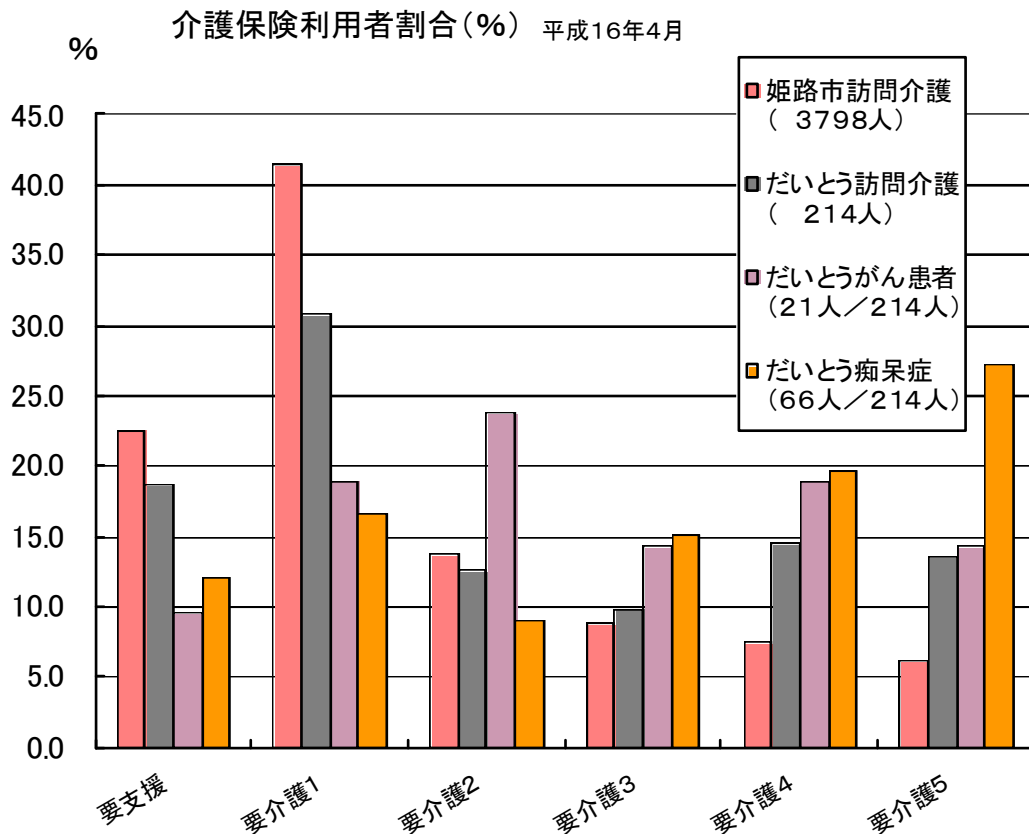


平成17年 1月10日

ヘルパーステーションだいとう ケアレポート No.2

ヘルパーステーションだいとうのケアレポートNo.2をお届けします。

下図をご覧ください。平成16年4月の利用者214名のうち、がん患者21名、痴呆症66名、合併4名でした。がん患者さんは症状が表に出て障害の程度が大きい場合と、がんをお持ちですが身体的には大きな問題になっていない方の2通りが見られます。また、痴呆症については寝たきり状態の方よりは介護度の低い身体的に動き回られる方の介護が難渋するようです。さらに、4名の方のようにがんと痴呆症を合併しているケースは、その状態によっては病院でも福祉施設でも受け入れが難しいようです。



重介護の方のケアは確かに大変ですが、ヘルパーが困難と思う事例は障害の程度が大きいことよりは、計画通りに援助が上手くできない事例です。例えば、排泄自立、痴呆症ケア、居室や身体の清潔に拒否的な方、セクハラ、暴力行為、家族と利用者本人の思いの乖離が大きいケースなどがあります。ただ、その困難な状況はヘルパーよりもご本人やご家族がより大きく負担を感じて戸惑って

おられるとの理解で援助に当たっています。共に考えながら事に当たって行く姿勢を保ちたいものです。

私どものステーションの内外の活動の質についてもふれてみます。

昨年にホームヘルパーの2級養成、1級養成、介護福祉士に対する同行実習の受託は

近畿福祉大学、ビジョクエスト（ハローワーク）、姫路YMCA、
高齢者生活協同組合、コープこうべ

の5団体です。また講師、学会座長等への派遣は

ビジョクエスト、高齢者生活協同組合、神戸YWCA、日本ホスピス
在宅ケア研究会全国大会 in 福島、日本精神科看護学会「老年期精神科看護」分科会の5団体に行いました。

ヘルパーの資格については将来は介護福祉士を中心とするとの制度改正が今年の4月には示される予定です。しばらくはヘルパーの養成に混乱がありそうですが、いつの時代にも良質のヘルパーが求められるのは当然でしょう。私どものヘルパーステーションも地域全体に対して、新規の養成や、現任者への研修、サービス提供責任者のスキルアップ、管理者研修などに積極的にかかわって行く所存です。同行実習では実際のサービス提供現場、つまり利用者本人の居宅での実習が義務づけられているため、ご利用者のご理解が必要です。不慣れな者が訪問することになりますが、同行実習の趣旨をご理解の上ご協力下さい。よろしく願いいたします。

昨年の当ヘルパーステーションに対する監査等は以下の通りです。

1. 兵庫県中播磨県民局 福崎健康福祉事務所監査指導課 2名
指定介護保険施設等に対する実地指導
2. 姫路市健康福祉局福祉部障害福祉課支援費管理担当 2名
指定居宅支援事業者等実地指導
3. 特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構 3名
介護サービス第三者評価・訪問介護 125項目
4. ヘルパーステーションだいたう第三者委員 2名
アセスメント、援助計画、介護記録、モニタリングの確認

それぞれには大きな問題点の指摘はありませんでしたが、ステーションとしても私たちの活動を点検し、質の向上に向けて改善中です。

ヘルパーに対する教育については後日改めて報告します。皆様の最も関心がおありなのは実際に皆様にサービスを提供するヘルパーの質についてでしょう。ただ、ヘルパーの質については、すべてヘルパー本人の責任とは言えない環境もあります。そのことについても言及したいと考えています。

皆様のご意見をお聞かせ願えれば幸いです。